**《本号の表紙絵》**

**『第１回・第２回医師國家試験　模範解答集』**

（日本臨床社，1947 年）

医師国家試験は占領下の昭和 21 年 11 月から始まった．当初は慶應義塾大学附属医学専門部と東京慈恵会医科大学附属医学専門部を卒業した歯科医が受験した．後に昭和 23 年 10 月に施行された医師法に基づいて実施されるようになり，受験資格に大学医学部卒業等の厳しい制限を設けた国家資格のための資格試験となっていく．

第 1 回の試験では基礎医学・臨床医学の各分野からのいくつかの事項について記述して説明する問題が 34 問出題されている．「1. 腹腔動脈の枝別及び分布を記せ」「14. 結核の集團検診法を説明せよ」「24. 耳疾患に於ける聴力検聽査の意義」など，基本的な事柄と思われる内容であるが，合格率は 44.1% と低かった．

本書は当時の受験生に試験問題の概要と答案の書き方を伝える有用な本であったことが容易に推察できる．実際，表紙絵撮影に用いたものは使い込まれた形跡がある．本文には臨床分野の種々の数値を中心に朱線が多数引かれており，臨床分野を苦手としていた学生が用いていたと思われる．

このような国家試験対策のための実用本は大学図書館においても保存されることが少ないが，学生生活や将来を左右する資格試験に対してどのように立ち向かったのかを示唆する点で興味深い資料ではないだろうか．

（澤井　　直）